

令和6年度 授業改善推進プラン 技術・家庭科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題
・実習題材を精選し、ICT機器を活用しながら学習の基礎・基本の定着を図った。週に1時間の授業での達成度は十分でない面もあるが、3年間の指導計画で学力の定着を目指し継続する。 ・1年生の製図において、昨年同様、練習時間を多く設けた。その結果、キャビネット図、等角図、第三角法による正投影図など正確にかくことができる生徒が増えた。 ・達成感の高い作品を教材としたことで、多くの生徒が家庭で作品を使用してくれている。今後も達成感をもてる作品作りを継続することが重要と考える。

技術・家庭科の課題と具体的な改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
知識・技能	・試験等で知識を問う設問に関する正答率が低く、知識の定着が十分にできていないが続いている。授業中で知識定着へ向けた取り組みの少なさが課題であると考え。 ・衣食住の生活のうち、衣と食の分野では、作品製作や調理などの実習における理解と技能に個人差が生じる。	・技術・家庭科は問題集など演習するものがなく、勉強の方法に悩んでいるという声があがっている。試験前に演習プリントを配布し、学習しやすい体制づくりを進めるなど、支援をする。 ・基礎的な知識については、小テストを行い、定着を図る。技能面では手順に関する資料や動画などを共有し、繰り返し練習できるようにする。また、状況に合わせて、再テストや補習などを行う。
思考・判断・表現	・授業で取り扱った内容が社会の中でどのように関係しているのかを考え、まとめる活動を行った。記述からは、思考を働かせている様子がうかがえるが、生徒によって差があり達成度に関きが大きい。 ・製作する作品を、より使い心地が良くなるよう機能やデザインを工夫し、自分の発想を表現できる力をつけさせる。 ・作品作りにおいて、製作する上での問題点を考え、問題を解決しようとする判断力を身につけさせる。自分の生活をよりよくしようとする意欲を今後も持続させる。	・意見の共有を今までより盛んに取り入れたい。生徒がさまざまな意見を取り入れ、柔軟な考えを出せるように働きかける。意見をまとめる際、紙媒体であると情報の共有として効率が悪いことがあるため、PCを積極的に活用して共有活動を図る。 ・生徒の工夫や発想のよいところを見つけ、褒めるよう心がける。自分の発想をどのように表現したらよいか、必要に応じてアドバイスをを行う。 ・見本となる作品例や段階標本を示すことにより、自身の作品の進捗や精度を確認しながら、創意工夫できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	・教科の内容を学んだうえで、社会や環境をよりよくすることを考える活動を授業で取り組んでいる。しかし、授業での取り組みを踏まえたことを考えられていない生徒がおり、教科の学習が態度等に十分に反映されていない。 ・作品製作や実習は意欲的に取り組む生徒が多いが、座学の授業では、興味関心に個人差があり主体的な取り組みにもばらつきが見られる。 ・作品製作では、苦手意識をもつ生徒に対して、意欲的に取り組むことが出来るような働きかけが必要である。	・「主体的に取り組む態度」をみとる際の問いかけ方法をより工夫する。学習内容を直前に振り返り、かつ関連する問題提起を生徒の関心の高まるように引き込み、自分ごととして考えられるように働きかける。 ・座学の授業では、実物投影機・パワーポイント・プロジェクター・電子黒板等のICT機器や、一人一台端末などを活用し、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような教材の工夫をする。また、めあてを明確にすることにより、生徒が目標をもって授業に臨めるようにする。 ・作品製作では、授業毎に自己評価を行う。小さな目標を段階的に設定することにより、達成感を味わいながら進められるようにする。